

Dream Tree 通信 ~2026年5月号~

「見えないところで街を支える仕事を学ぶ」

私たちが毎日当たり前のように使っている水。トイレやお風呂、台所で使った水は、その後どこへ行くのでしょうか？

5月13日のDream Treeの活動では、宇都宮市にある川田水再生センターを見学し、下水道の仕組みや水をきれいにする仕事について学びました。今回の見学では、宇都宮市議会議員の渡辺道仁様にご協力いただき、普段はなかなか入ることのできない施設内部や地下の設備まで見せていただくことができました。



川田水再生センターは、宇都宮市内で最も大きな下水処理施設です。家庭や学校、お店などから流れてきた下水をきれいにし、自然へ戻す大切な役割を担っています。見学では、まず大きなごみや砂を取り除く「沈砂池」を見学。その後、水の汚れを沈める「最初沈でん池」、微生物の力で汚れを分解する反応タンク、そして最後に消毒して川へ放流するまでの一連の流れを見せていただきました。

最初は濁っていた水が、工程を経るごとに少しずつ透明になっていく様子を目の当たりにし、子どもたちも興味津々。「だんだん水の色がきれいになっていく様子が面白かった」という感想も聞かれました。



また施設内では、汚泥を処理する設備も見学しました。特に印象的だったのが、「ひまわり君」と呼ばれる大きな機械です。下水処理の過程で発生した汚泥を活用し、肥料へと生まれ変わらせる仕組みについて学びました。子どもたちからは、「ひまわり君が大きいのと、その中で汚れた土から肥料が作られるってすごいね」という声も聞かれ、資源を無駄にせず再利用する循環の仕組みに関心を持っている様子でした。

見学の最後には、顕微鏡を使って微生物を観察する体験も行いました。反応タンクの中では、目には見えない小さな微生物たちが水をきれいにするために働いています。実際に顕微鏡をのぞくと、微生物が元気に動き回る姿が見え、子どもたちも驚いた様子でした。「顕微鏡で見ると、本当に微生物が動いてすごかった」という感想からも、その感動が伝わってきました。



今回の見学を通して、普段は意識することの少ない下水道や水処理の仕組みについて学ぶことができました。蛇口をひねればきれいな水が使えること。使い終わった水が環境に悪影響を与えないよう、たくさんの設備や技術、そして働く方々によって支えられていること。子どもたちは、水をきれいにする仕組みだけでなく、社会を支える仕事の大切さや環境を守るための工夫についても知ることができました。

「連休後の行き渋りに、どう対応できるか？」

新年度が始まって約1か月。ゴールデンウィーク明けの5月は、登校しぶりが増えやすい時期とされています。4月は新しい環境の中で緊張しながら頑張っていた子どもたちも、少しずつ疲れが出てくる頃です。「朝になるとお腹が痛い」「学校に行きたくない」といったサインが見られることもあります。

そんな時に大切なのは、「どうして行けないの？」と原因を探したり、「頑張って行こう」と強く促したりすることよりも、まずは「今はそういう時期なんだ」と理解することです。子ども自身も、自分の気持ちをうまく説明できないことがあります。だからこそ、子どもの選択や気持ちを尊重し、安心できる居場所を確保することが何より大切です。

「学校に行かないという選択」は心や体が発している大切なサインであることも少なくありません。焦って答えを出そうとせず、「今は休む時期かもしれないね」と受け止めながら、子どもが少しずつエネルギーを回復できる環境を整えていきましょう。

「生きていく力を身につける」

Dream Treeでは、学校教育の補完だけでなく、将来社会で生きていくために必要な力を育む学習にも取り組んでいます。

この日は「お金」と「税金」について学んだ後、近隣のスーパーへ昼食の買い物に出かけました。普段何気なく買い物をしていますが、限られた予算の中で何を選ぶかを考えることは意外と難しいものです。「これも食べたいけれど予算が足りない」「消費税を計算するといくらになるだろう」など、それぞれが真剣に考えながら商品を選んでいました。



買い物の途中では、上級生が下級生をサポートしたり、計算が得意な子がみんなにアドバイスしたりする場面も見られました。学年の垣根を越えて協力し合いながら活動する姿は、とても頼もしく感じられました。無事に買い物を終えた子どもたちは、自分で選んだ昼食を味わいながら達成感を共有していました。

お金の価値や税金の仕組みを学ぶだけでなく、計画する力や判断する力、そして仲間と協力する力を育む貴重な学びの機会となりました。(スタッフ 野澤)



DreamTree